

平成27年7月28日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
 (コード番号：4572)
 問合せ先 経営管理本部長 吉野 公一郎
 (TEL：078-302-7075)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成27年2月13日に公表した平成27年12月期通期（平成27年1月1日～平成27年12月31日）の連結業績予想を、下記の通り修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正内容

平成27年12月期通期業績予想の修正の内容（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想 (A)	—	—	—	—	—円
今回修正予想 (B)	1,532	372	395	364	42.03円
増減額 (B-A)	—	—	—	—	
増減率 (%)	—	—	—	—	
(参考) 前期 (平成26年12月 期) 通期実績	611	△634	△607	△846	△102.18円

(注) 前回公表予想につきましては、従来、創薬事業において、当社研究テーマの大手製薬企業等への導出一時金収入等を想定して売上高予想を記載しておりましたが、本予想数値の公表が当社創薬事業の導出活動における最大価値創出の阻害要因として作用することが想定されることから、創薬支援事業の数値のみ公表しておりました。それに伴い、全社の業績予想についても記載しておりません。したがって、増減額および増減率についても記載しておりません。

(参考) 個別業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想 (A)	—	—	—	—円
今回修正予想 (B)	1,449	409	378	43.69円
増減額 (B-A)	—	—	—	
増減率 (%)	—	—	—	
(参考) 前期 (平成26年12月 期) 通期実績	520	△517	△869	△104.94円

(注) (1) 連結の注に同じ。

2. 業績予想修正の理由

前回公表の連結業績予想において、創薬支援事業の売上高を917百万円と計画し、創薬事業の業績予想は当該予想数値の公表が当社創薬事業の導出活動における最大価値創出の阻害要因として作用することが想定されることから公表しておりませんでした。創薬支援事業の売上高予想を917百万円（前回予想と同額）、創薬事業を614百万円、全社で1,532百万円に修正いたします。

セグメント別の創薬事業の売上高予想を変更する背景は、次のとおりであります。平成27年6月11日付で公表いたしました「ジョンソン・エンド・ジョンソンの医薬品部門米国ヤンセン・バイオテック社とのライセンス契約締結に関するお知らせ」に記載のとおり、当社はジョンソン・エンド・ジョンソン（以下「J&J」という）の医療用医薬品部門のひとつである米国ヤンセン・バイオテック社（以下「ヤンセン社」という）との間で、当社が創出した医薬品候補化合物の開発に関するライセンス契約（以下「当該契約」という）を締結いたしました。それに伴い、平成27年12月期第2四半期に、当該契約に係る導出一時金が計上される見込みであるとともに、当期通期の創薬事業における収益計上について精査を行ったことによるものであります。創薬支援事業の売上高予想は、小野薬品工業株式会社からの大規模委受託試験も順調に実施していること等から、現時点で前回予想時点における当該事業の状況認識と大きな乖離が認められないため、地域別の上半期の連結売上実績を勘案したものの、全社では前回予想と同額といたしました。なお、地域別売上計画は、国内が594百万円（前回公表予想比3.9%減）、北米が229百万円（前回公表予想比23.4%増）、欧州が80百万円（前回公表予想比18.3%減）、その他地域が13百万円（前回公表予想比8.5%減）であります。

つぎに損益面についてですが、当社は、前回公表予想において、創薬支援事業の連結営業利益406百万円のみ公表しておりましたが、同日公表の中期経営計画において平成27年12月期の全社黒字化を必達の経営目標とし、売上拡大に取り組むとともに、全社的に積極的な経費圧縮策を講じることにより、全社黒字化に向け一丸となり取り組んでまいりました。その結果、上述の創薬事業における導出一時金の計上に伴い、当該全社黒字化はほぼ達成する見込みとなったことから、当期下半期の経費予算について見直しを行いました。その主な内容は、当社創薬事業における研究開発の迅速化ならびに外部研究機関との積極的な共同研究の推進、ならびに社内の研究開発体制の強化を目的とした研究開発要員の増員等であります。さらに、その他販管費についても、全社黒字化を目指した緊急避難的な経費圧縮措置を解除することといたしました。以上により、平成27年12月期通期における業績予想を修正し、営業利益を全社で372百万円、セグメント別では創薬支援事業が398百万円（前回公表予想比1.9%減）、創薬事業が△26百万円とし、経常利益を395百万円、当期純利益を364百万円といたしました。今後は、積極的な研究開発投資と冗費の圧縮をともに進め、当社事業の更なる強化に努めてまいります。

※本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び本資料の発表日現在において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上